

VACUUM PACKAGING MACHINE DZシリーズ

自動真空包装机 DZ-301W

100V電源なので何処にでも設置可能。
コンパクトながら納得のいく真空能力でとっても便利。

小ロットの真空に最適

卓上型

DZ-301W

定価 218,000円



特 徴

- シールバーが2列あるので、2つ同時パックが可能
- 業務用の能力を持ちながら驚きの価格。
- コンパクトなので設置場所を選びません。
- 操作もカンタンでどなたでも使えますので、入門機におすすめ。





型 番	DZ-301W
消費電力	100V 50/60HZ ポンプ 550W ヒーター線 1400W
外形寸法	幅 520X 奥行き 415X 高さ 425 (mm)
チャンバー内寸法	幅 450X 奥行き 280X 高さ 70+60 (計 130)
シール長	幅 8mm X 長さ 25.5mm
重 さ	41Kg
空気排出能力	10m ³ / h (99.9%到達まで約 33 秒)
真空能力	<1.066KPA



株式会社アスクワークス

TEL:03-5610-3666
http://www.askworks.com

販売代理店名

分かりやすい真空気包装機の使い方手順

DZ-301W

注意事項

- ・ 4 5 分程度連続使用したら、必ず 2 時間以上機械を休ませてください。(ポンプのオーバーヒートやオイル漏れを防ぐため)
- ・ ふたを開けてから、電源を入れてください。



- ①排出時間（空気を抜く時間）を調整します。
1 回押して、▲▼で時間を調整します。
18 秒から 37 秒程度で丁度いいです。



- ②膨張時間を調整します。
1 回押して膨張に→がいきます。
とくに膨張しなくて良ければ、
標準の 0.0 のままでよいでしょう。



- ③密封シール時間を調整します。
密封シール時間調整ボタンをもう 1 回押して、
密封シールに→を合わせ、
▲▼でシール時間を調整します。
(一般的な袋でしたら、約 1.4 秒です)



- ④右端のシール温度のレベルを中温にします。



- ⑤袋に入れたものを中にセットします。



- ⑥包装機のふたを閉じます。このとき
必ず両手で強く閉め、2,3 秒押さえつけます。
すると、自動的に空気を抜いていきます。



- ⑤タイマーが 0 になり、シールを
自動的にして完成です。

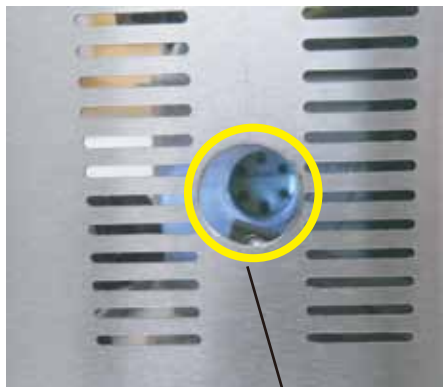
主なメンテナンス

DZ-301W

1、ポンプオイルのチェック

月に1回くらいの目安で裏蓋を開けて、ポンプの窓からオイルが規定レベルまであるか、オイルが汚れているかを定期的にチェックして下さい。

* 汚れたまま使い続けるとポンプが破損してしまいます。



オイル窓



ポンプのオイル窓

2、ポンプオイルの交換 * 必ず二人でオイル交換作業をする事（傾斜時落下しないため）

ポンプの窓からオイルが規定レベルまであるか、月に1回くらい定期的に見て、汚れていたら交換して下さい。（目安として3000から5000回ごと、または使わなくても半年ごと）量はポンプの窓から見て半分ぐらいがちょうどいいです。

準備するもの： ①ペットボトルなどの受け容器（廃油入れ） ②プラスドライバー
③10番のスパナ ④オイルジェット



①一人が機械を抑えながら、机からドレンボルト分（15センチくらい）をはみ出してください。



②まず、Aの赤いキャップをゆるめる、次にペットボトルをネジの下に用意し、スパナでBのネジを半分ゆるめ手で外して、廃油を抜け出します。



③平らな所に戻し、少しずつオイルを入れる。（半分まで）

3、消耗品値段一覧

高純度ポンプオイル	500ML（1回分以上）	1000 円
	1リットル（3回分）	1500 円
テフロンシート	2メートル巻き	1200 円
ふたのパッキン	1回分	2100 円
ヒーター線	1本	500 円

テフロンテープ（ヒーター線の保護シート）の交換



①写真のようにテフロンテープがこげて穴が開いてしまったら、テフロンテープを交換します。



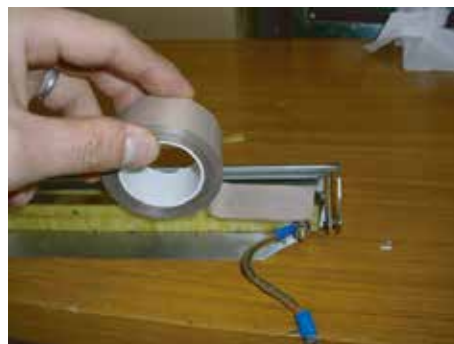
②両サイドの導線を本体に止めてあるプラスのねじをはずします。（2箇所）
注：必ず片手で導線を押さえながら！



③テフロンテープを固定してある、プラスチックの棒の3箇所のねじを外します。（年式によってはついていません。）



④手で引っ張ってテープを剥がします。
簡易的に交換する場合は⑤へ
完全に交換する場合、もしくはテープではなく、粘着がないシート状の場合は⑦へ



⑤汚れをティッシュなどでふき取り、新しいテープを張ります。



⑥完成です。



⑦ユニットをひっくり返してプラスのねじを2箇所外します。



⑧反対側のプラスチックの棒のねじを3箇所外します。



⑨真ん中に来るようにテープを張ります。脇の部分も隠れるように、十分に長めにカットしてください。



⑩両端をはさみで形を整えます。



⑪プラスチックの棒の穴にあわせてカッターでカットします。

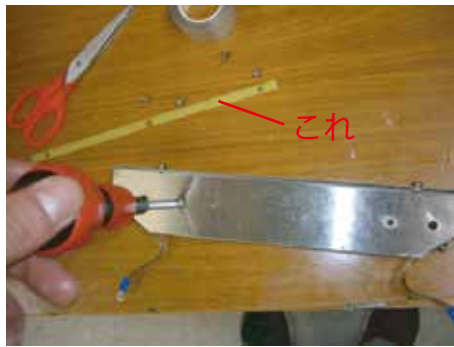


⑫プラスチックの棒2本を止め、ひっくり返して後ろのねじ2箇所を止めれば完成です。

ヒーター線の交換



①両サイドの導線を本体に止めてあるプラスのねじをはずします。(2箇所)



②ユニットをひっくり返して+のねじを2箇所外します。そして、テフロンテープを止めてある黄色い棒を2本外します。(機種、年式によってはついてません。)



③分解する前に、必ず前側に印をつけてください。(黄色の本体) 重要です。導線が付いているほうが前です。



④10ミリのナットを外します。(2箇所)



⑤ボルトを引っ張って抜きます。(2箇所) そして、ヒーター線を外します。このときかすが中に残っていたら、きれいに除いてください。



⑥ヒーター線の長さが適度であるか確認してください。(AZ-290J,291J,DZ-300=36CM DZ-301W=38.5CM, AZ-350J=42CM, AZ-390J=46CM, AZ-400WS,DZ-400=56.5CM) 長すぎる場合ははさみで切ってください。誤差1CMはOKです。



⑦巻いてある部分があまりにも黒く焦げていたら、接地を良くする為にやすり等で削ってください。



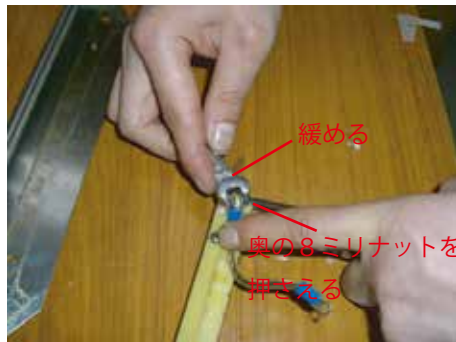
⑧金具にヒーター線を差し込んでから黄色の本体に差し込みます。(③で印を付けた、前側から) そして1回転左に回します。



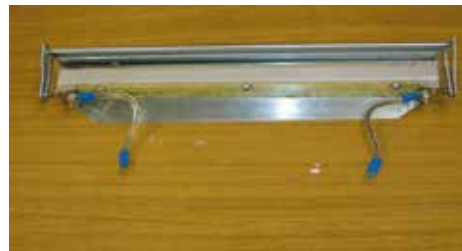
⑨同じように反対側も差し込んでセットし1回転回します。そのあと、ある程度ピンと張るように左右均等に少しずつ回していきます。(注意：張りすぎるとその後また切れやすい)



⑩後ろ側の10ミリのナットを取り付けます。(2箇所) その後、テフロンテープを貼り付けます。(別紙参照)



⑪導線の位置を黄色の本体と平行になるようにラジオペンチやスパナ(8ミリ)を使って調整します。



⑫台座にセットして、ねじを2箇所止め、完成です。この時台座の穴の位置がずれないように注意します。

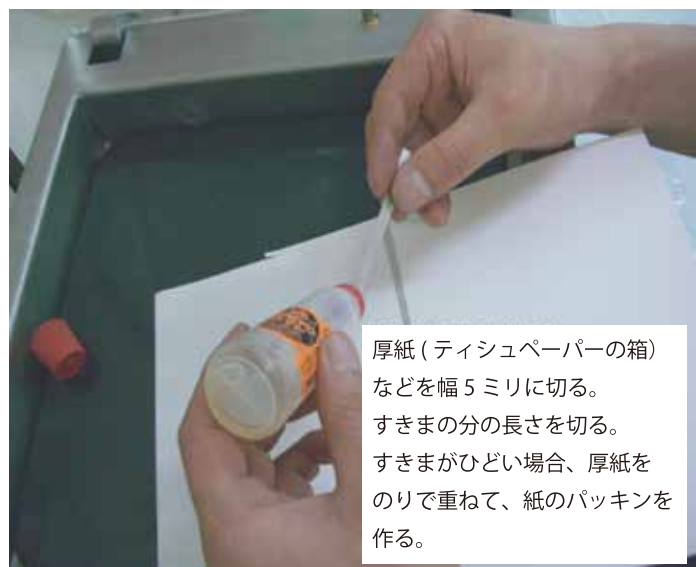
思い切り体重を乗せて閉めないでと作動しない（ふたがかたい）
場合、ふたのゴムパッキンのすきまを調整する。



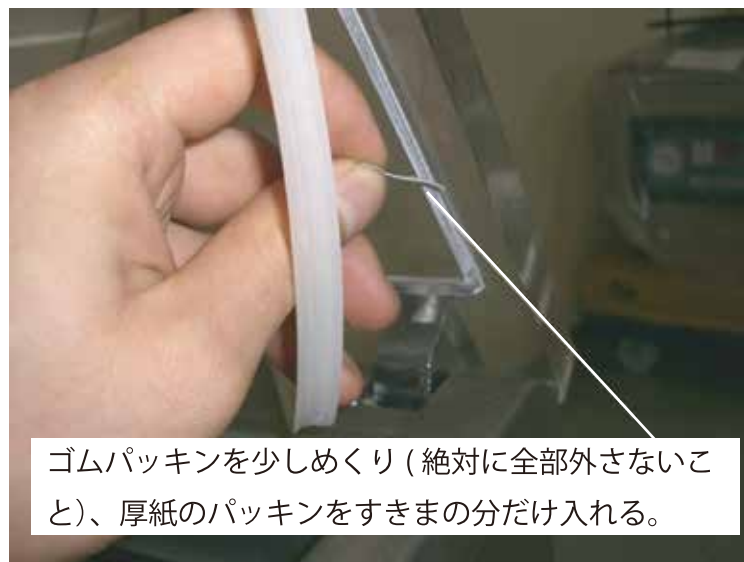
手でふたを閉じてふたの根元に注目してください。



釜とパッキンのすきまがあいていたら、このすきまが原因です。



厚紙などを5ミリ幅に切り、透明のふたの溝とゴムパッキンの間に入れることでゴムパッキンを盛り上げます。



必要な枚数だけ入れます。のりやボンドで固定します。

・それでも解決しない場合は、パッキンにやぶれ、亀裂がありませんか？
その場合は、パッキンの交換が必要です。

説明書

1 はじめに

真空パック器 DZ シリーズは高い品質、多機能、新奇で魅力的なデザイン、簡単な操作、お手入れ簡単です。合成フィルムやアルミホイルなどの真空パック用の袋にぴったりです。固体、液体、粉、ペースト、果物、薬、薬品、電子部品、精密機器、金属などにぴったりです。

2 特長

透明のガラスのカバーですので、進行状況がよくわかります。

3 機器の概要（主な工学的要素）

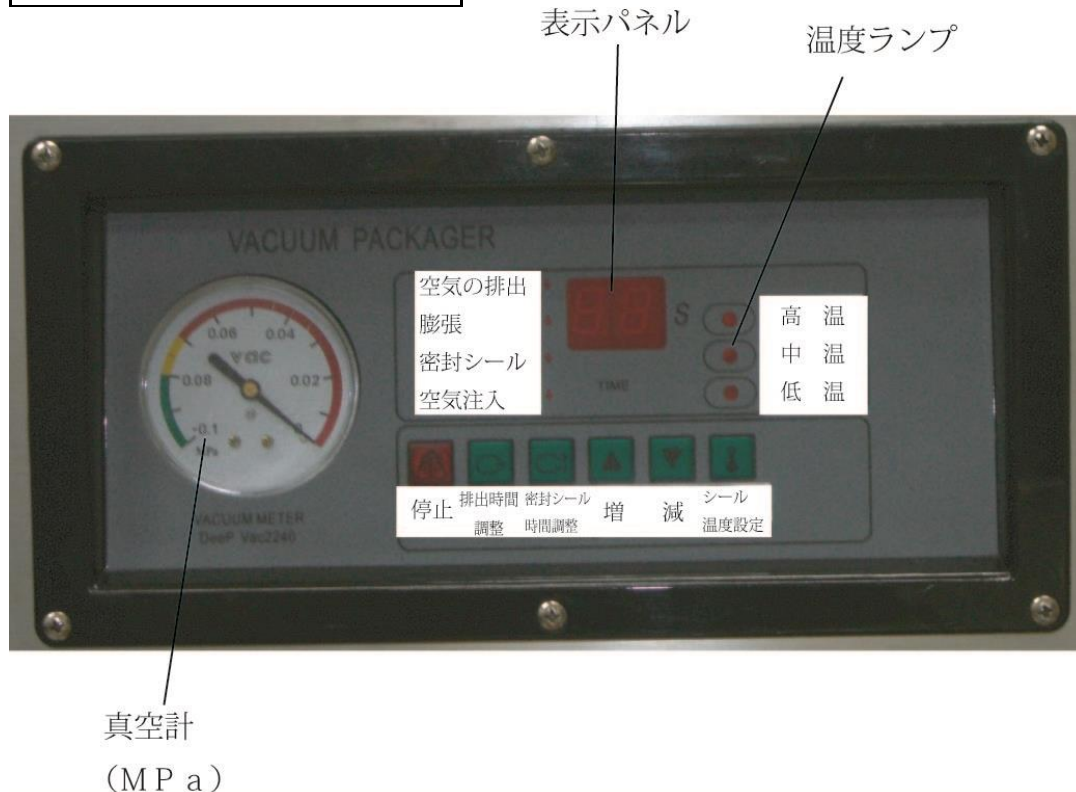
型番	ボルト	モーター ワット数	シール長	空気排出 能力	チャンバー内寸	本体外寸	重さ
DZ-301W	100V	550W	8x26.5mm	10 m ³ /h	450x280x70+65	520x415x425	41kg

真空能力
<1. 066KPA

4 構造



5 コントロールパネル 操作パネル



1 背面の電源を入れる。

表示パネルには“—”と表示される。(使用可能状態)

2 密封シール時間を設定する前に排出時間調整を押す。

▲ ▼で0から99秒の間で真空時間（真空にするため空気を抜く時間）を調節する。
(通常は23秒程度が最適な時間)

3 密封シール時間調整を1回押す。

▲ ▼で0から9.9秒の間で膨張時間を調節する。(膨張する必要がない場合は0秒に設定する)

4 密封シール時間調整をもう1回押す。

▲ ▼で0から99秒の間でシール時間を調節する。(目安としては1秒から2秒) ぐっつかなくてもだめだし、溶けすぎてもだめなので、何枚か練習して、仕上がりを見て丁度いい時間を探ってください。

5 シール温度を押して、3段階で調節する。

設定終了後、すべての情報は保存されます。(シール温度だけ保存されませんので電源を入れるたび設定してください。)

6 操作設定

1 空気排出の時間は真空袋のサイズに合わせる。

2 密封シール時間や密封シール温度は真空袋の厚さに合わせる。

3 袋を真空作業スペースに置く。袋の入れ口はしわにならないように台の上に置き、袋を押さえるバーを引っ掛ける。ガラスカバーを強く押し下げて一度密閉されると、自動的に作動を始める。

4 真空ポンプが空気の排出を始める。

- 5 空気の排出後、膨張を始める。（膨張の必要がない場合、あらかじめ0秒にしておく）
- 6 膨張後、密封シール円形コイル弁に電源が入る。密封シールが作動を始める。
- 7 密封後、ガラスカバーが自動的に開く

7 注意

- 1 真空ポンプが作動しているときは、潤滑油が半分以上あるようにする。1/3 より少ないときは足すこと。
- 2 機器は水平に設置し、涼しいところに置く。湿気の多いところに置かない。
- 3 安定した台の上に置き、落下する可能性が無いか、安全性を確認する。
- 4 操作の前にあらかじめ時間や温度を設定すること。損害を与えるほどの長時間、高温にしないこと。
- 5 カバーを閉めると真空ポンプが作動する。
- 6 変な音がする、または真空計の針が動かないときは、操作方法が間違っている証拠。すぐに電源を切る。
- 7 テフロンワックス布を時々確認する。滑らかに保ち、痛んでいたら換えること。
- 8 緊急時は、ストップボタンを押し、すぐに停止させる。
- 9 使用後は電源を切る。
- 10 連続使用は 45 分を目安として、一度電源を落とし、2 時間ほどモーターを冷やす。
- 11 液晶画面に□□の表示がついたまま(電源を入れたままふたを閉じた状態)にしないこと。

8 交換部品等

- 1 電子部品価格一覧表

2 消耗品価格一覧表をご覧ください。

9 故障かなと思ったら

問題	理由	解決法
真空にできない	真空ポンプの接触が悪い	要交換
	起動スイッチが壊れている、位置が悪い	要交換
	上下のカバーがあわない	手で強く押す
	真空ポンプが逆転する	力のかかる面を調整
	真空ポンプのモーターがおかしい	要交換
真空が不十分	パイプラインの接続がしっかりしていない	用点検
	真空スペースか円形コイル弁が見える	要交換
	パイプが見える	要交換
	真空スペースの密封シールバーが壊れている	要交換
	真空時間が不十分	時間を延ばす
カバーが開かない	円形コイル弁が壊れている	要交換
密封シールができない	温度未設定	再設定
	変圧器が壊れている	要交換
	電流部分が壊れている	要交換
	ヒューズが飛んだ	要交換
	円形コイル弁が壊れている	要交換
	パネルの継電器が壊れている	要交換
	パネルの継電器の線が切れている	要点検
密封シールがうまくいかない	密封シール円形コイル弁の故障・閉鎖	要点検
	空気袋が見える	要交換
	密封シールの時間と温度が不適當	再設定
	汚れ	清掃
	可動部分が動かない	調節

密封シールから煙が出る	テフロンワックス布の故障	要交換
	帯状ヒーターが変形	要交換
操作異常	汚れ	清掃
	密封シールの時間と温度が不適當	再設定
	操作パネルの故障	要交換
	操作パネルの接続ミス	要点検
	操作パネルの不接続	要点検

お気軽にお問い合わせください。

〒130-0004

東京都墨田区本所 4-2-2

株式会社 アスクワークス

TEL 03-5610-3666

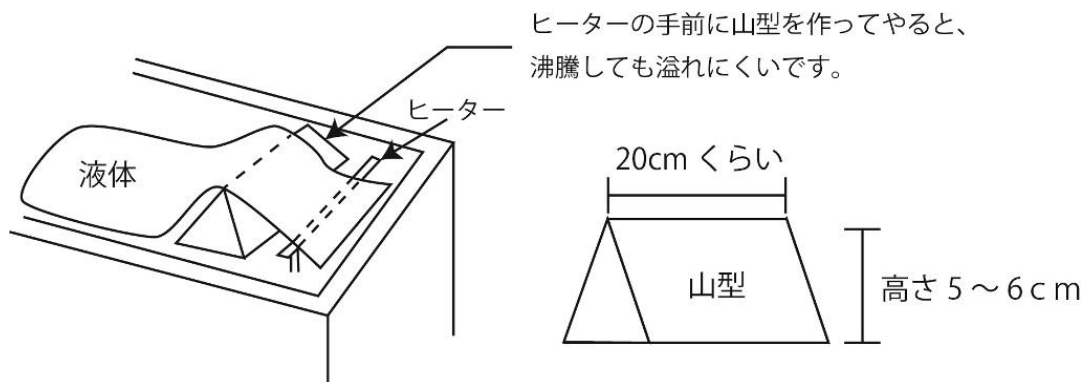
FAX 03-5610-3667

<http://www.askworks.com>

汁物、液体を含むものを真空パックする方は必ずお読みください。

液体や、液体を含むものを真空パックする場合、水分は常温でも気化して（低温沸騰という）、ポンプ内に吸い込まれます。そして、ポンプ内でまた水に戻り、水がたまってしまうと、ポンプ内がさびつき、壊れてしまいます。（ポンプロックという）下記の点に十分にご注意ください。

- ① 暖かいまま真空をかけない。（暖かいほど水が気化して吸い込まれやすい）冷やした状態で真空引きしてください。
- ② 液体、汁物をこぼさない。こぼしたら、その度にきれいにふき取る（シールユニット（シールする部分）も持ち上げ、下の青い空気袋の下も拭く）。
こぼしっぱなしで使い続けると、すべて気化してポンプ内に吸い込まれます。
下記のように三角のスロープを厚紙（ティッシュの箱などの）などで作ってやると、こぼれにくいです。



- ③ 後ろのオイルチェック窓を週に1度は目視して、汚れ始めたら古いオイルを抜いて、こまめに新しいオイルに交換する（継ぎ足すだけでは、ある意味逆効果です。古いオイルをすべて抜いてオイル交換してください。）。どのぐらいの頻度で交換したらよいのかは、使い方によって、全く異なります。早い方では3週間に1回、汁物をやらない方は1年に1回ぐらいです。定期的に後ろのチェック窓を見ることが大切です。
- ④ 見た目に液体ではないもの（揚げ物、ハンバーグ、お惣菜など）もたくさん水分を含んでいます。十分にご注意ください。
- ⑤ しばらくの間使わない場合（1，2週間以上）はオイル交換を必ずしてからしまってください。ポンプ内に水がたまったまま放置すると、次に使おうとしたらすでにさび付いてしまって動かない可能性が高いです。